



-581-



小学生だった頃のある日、友人が誕生日プレゼントにゲームソフトをもらったという話を耳にした。当時、私は誕生日といえば凶鑑をもらう日だと思っていたので、とても驚いたものです。事実、それまで毎年私の誕生日プレゼントは凶鑑でした。

周りの人達に名前を聞いて回っていました。しかし、結局わからずじまいになっ

見つけてきては、凶鑑で調べる。家にいる間に凶鑑で気になる植物を見つけてはそれを探しに行くということを繰り返していました。当時のお気に入りには「食虫植物」で動物を食べることに衝撃を受けた

凶鑑と私

ステップアカデミー
光が丘第2教室長 大塚 和彰

私と凶鑑の出合いは幼稚園児の頃まで遡ります。外で泥だらけになりながら遊ぶ私は好奇心の塊で、知らない草花を見つけては両親をはじめ、

てしまうこともよくありました。そんな中、両親が誕生日プレゼントとしてくれたのが1100ペー

ことを今でも覚えています。この頃から凶鑑に載っているものを「いつか自分の目で実際に見てみたい」という気持ちが

どんだん大きくなってきて、よく家族や友人と探検に出掛けていました。昆虫図

の見える仕事をしています。そこで大切にしていることは、その人が好きなことを知ることです。好きなことなら行うことができます。続けることができます。その人の興味を知ること、そこから知る楽しさや調べることの面白さを伝えていくことができるのではないかと思います。私に

昭和59年生まれ
埼玉県出身 埼玉県
新座市在住